

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成21年10月23日		
		作成部署	建設交通部 河川課		
事業名	堂の川 総合流域防災事業	地区名	京都市伏見区桃山南・宇治市木幡		
概算事業費	9.3億円	事業期間	6ヶ年		
事業概要	堂の川は、宇治市街を流れ京都市境にある木幡池を経て山科川へ流入している。 木幡池は堂の川の洪水を貯留して、周辺地域への氾濫を防止する、安心安全の上で重要な機能を有している。また、市街地の中の貴重な水辺・湿地空間でもある。 当事業では、浚渫等の抜本的な治水対策を実施すると共に、府民の憩いの場となるよう親水施設整備を行う。				
目指すべき環境像	近隣を大規模商業施設と市街地に囲まれた水辺環境区域として、治水機能と親水機能の確保とともに、現在も生息する魚類や飛来する野鳥類の生息空間の保全を図る。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工時の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点 決定要否					
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	池内に土砂が堆積し、樹木や雑草が繁茂しており、野鳥の飛来地になっている。 治水に必要最小限の堆積土砂の搬出にとども、現状と同様の植生環境を維持する必要がある。 ウォーターレタスなど外来性植物が繁茂しており、駆除が必要である。	親水施設整備後も樹木や植生を残すよう配慮する。 また、河床堆積土の掘削・搬出も必要最小限にとども、水棲生物や魚類の保全に配慮する。 現況コンクリート護岸を土手化し、水辺のエコトーンを形成する。		
	地形・地質			○	4
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種			○	3
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	当池は、水の流れがほとんどなく、近隣住民から悪臭に対する被害が訴えられることもあるため、改修により、生活環境改善に努める必要がある。 当該箇所は、人家が密集しており、事業実施において工事車両の通行等による騒音・振動の発生が予測されるため、これを抑制する必要がある。 また、建設発生材を、極力リサイクルする必要がある。	当事業により湛水能力の向上を図るとともに、水循環の改善を図る。 事業実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 掘削発生土は、埋戻しや築堤に再利用するなど、処分する建設廃棄物の低減を図る。		
	水環境・水循環			○	4
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			○	3
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	当該箇所は、市街地近傍において、貴重な水辺環境を形成しており、野生生物の生育の場として保全していく必要がある。 このことから地山や植生等の改変量を最小にとどめる必要がある。	材料の選定にあたり、現地採取材料の使用や在来種による法面の復旧を図るなど、地域の自然景観と調和したものとする。	3	
	里山の保全				
	地域の文化資産			○	3
	伝統的行事				
	地域住民との協働			○	4
その他					
外部評価					